

正方形、丸で抽象表現

ACAC 石田尚志さん個展

青森市の青森公立大学国際芸術センター青森（ACAC）で、画家・映像作家の石田尚志さん（46）の個展「弧上の光」が開かれている。「正方形と丸をテーマに、映像作品や油彩画、自身初となる彫刻が並ぶ。

石田さんは東京都出身、在住。線を描いては撮影し、撮影したコマをつないで映像にするドローイング・アニメーションの手法を用いた映像作品や、ライブパフォーマンスを中心に活動してきた。

方形と丸。「抽象の表現を」と話す。絵の具で少しずつ絵を描き、正面と横からのコマ撮りをして、どつしても丸、三角、四角といった形に行き、正面と横からのコマ撮りを繰り返した。横から撮った映像は液晶モニターで再生し、正面から撮影した映像は、油彩画の横に置いた白いキャンバスに投影。制作の過程を臨場感たにした。

同センターの構造を生かし、滞在制作した「弧上の光」は、油彩画とその制作過程をコマ撮りした映像を組み合わせた作品。壁にキャンバスを設置し、ギャラリーの窓から差し込む光が移動するのに合わせて、油



彫刻作品が展示されているスペースに立つ石田さん

つぶりに描き出している。石田さんは「真っ白なキャンバスの上に投影すること、その時に差していた光を追い体験できる」と話す。ほかの映像作品は青や黒など暗い色を多く用いた色彩が印象的だが、「弧上の光」はオレンジ、白など明るい色で描かれている。石田さんは「冬の青森は、真っ白い世界で、外は寒くて自然が厳しいけれど、室内に差し込む光は美しい。光に触発されて、温かい色が出てきた」と振り返る。「冬の絵・雪上絵画」は、滞在制作した作品は、下絵などを使わずに即興で、木の板を糸のこで切り抜いて組み合わせた。同展は6月16日まで。入場無料。同日午後2時半から、石田さんと美学、表象文化論研究者の星野太さんの対談が行われる。

「冬は寒くて自然が厳しいけれど、室内に差し込む光は美しい。光に触発されて、温かい色が出てきた」と振り返る。「冬の絵・雪上絵画」は、滞在制作した作品は、下絵などを使わずに即興で、木の板を糸のこで切り抜いて組み合わせた。同展は6月16日まで。入場無料。同日午後2時半から、石田さんと美学、表象文化論研究者の星野太さんの対談が行われる。

「冬は寒くて自然が厳しいけれど、室内に差し込む光は美しい。光に触発されて、温かい色が出てきた」と振り返る。「冬の絵・雪上絵画」は、滞在制作した作品は、下絵などを使わずに即興で、木の板を糸のこで切り抜いて組み合わせた。同展は6月16日まで。入場無料。同日午後2時半から、石田さんと美学、表象文化論研究者の星野太さんの対談が行われる。

（大庭菜摘）

問い合わせはACAC（電話017・764・5200）へ。